

発掘された松本

2018

—松本市遺跡発掘報告会—



麻神遺跡3次

日 時：平成31年2月23日（土）
午後1時15分～午後4時25分
会 場：Mウイング 6階ホール

松本市教育委員会

～松本市遺跡発掘報告会～

平成30年の発掘調査遺跡

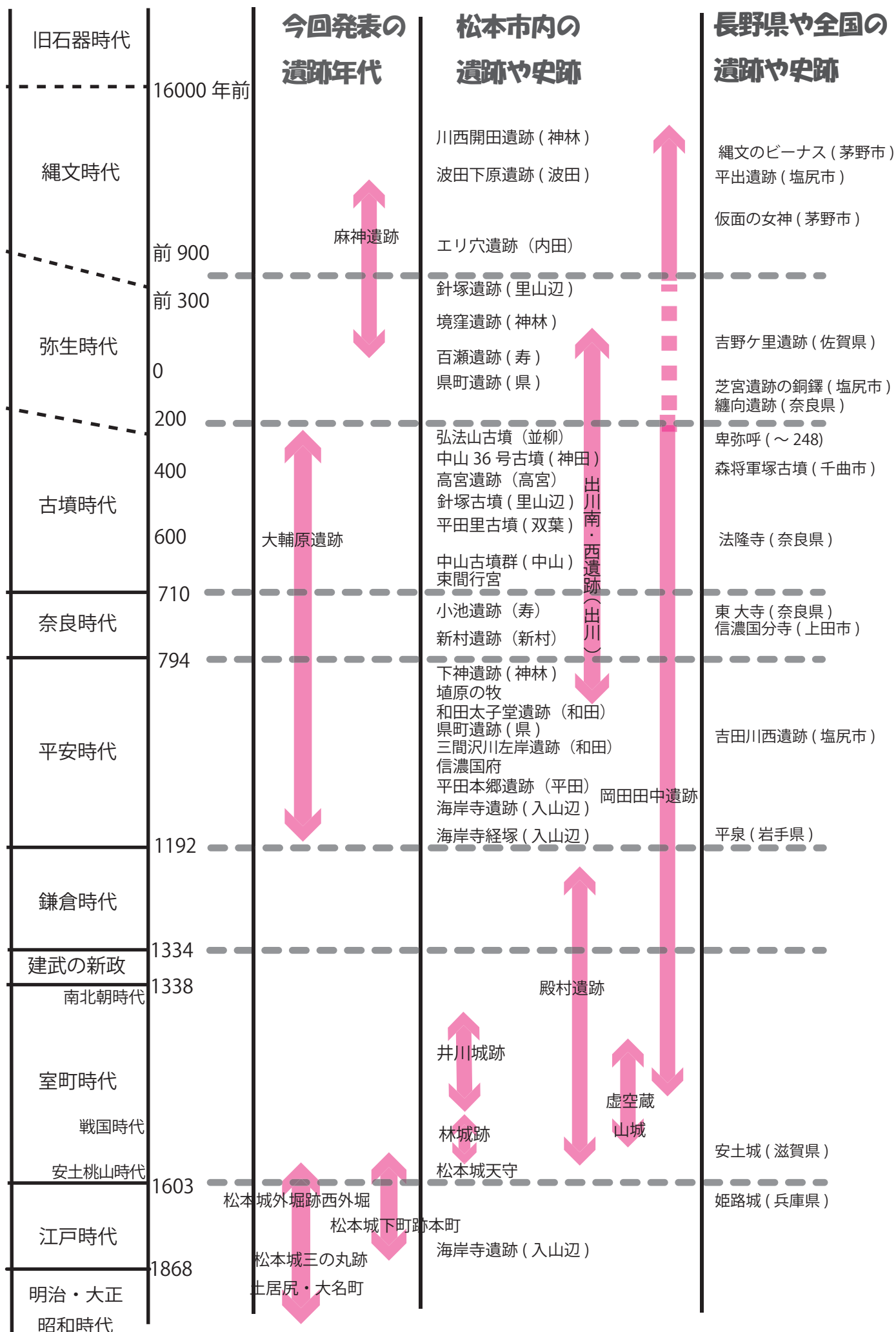


平成30年(2018年)埋蔵文化財発掘調査、報告書刊行一覧表

No.	遺跡・調査名	調査期間	調査面積	調査原因	時代	特徴・備考
1	サン マルアト 松本城三の丸跡 ドイジリ 土居尻第9次	H28.10.24 ～調査中	1,800㎡	都市計画道路 (内環状北線) 建設事業	安土桃山 ～江戸時代・ 近現代	武家屋敷
2	ソト ポリアト ミナミソトポリ 松本城外堀跡南外堀第3次	H30.1.15 ～H30.3.30	58㎡	松本城南・西外堀整備事業	安土・桃山 ～江戸時代・ 近現代	城郭
3	タイホウ バラ 大輔原遺跡第10次	H30.4.10 ～H30.6.12	253㎡	乳児院建設事業	奈良・平安・近 世	集落跡
4	松本城下町跡 イセマチ 伊勢町第29次	H30.6.7 ～H30.7.30	1,048㎡	ホテル建設事業	近世	町屋跡
5	ソト ポリアト ミナミソトポリ 松本城外堀跡南外堀第4次	H30.6.25 ～H30.9.30	51㎡	松本城南・西外堀整備事業	安土・桃山 ～江戸時代	城郭
6	サン マルアト 松本城三の丸跡 ダイミョウチャウ 大名町第2次	H30.8.20 ～H31.1.22	261㎡	都市計画道路 (内環状北線) 建設事業	平安・中世・近 世	武家屋敷
7	オガミ 麻神遺跡第3次	H30.11.8 ～H31.1.11	300㎡	畑地帯総合改良事業	縄文・弥生時代	集落跡
8	松本城下町跡 タカジョウマチ 鷹匠町第1次	H30.12.20 ～調査中	200㎡	松本城南・西外堀整備 事業	中世・近世	武家屋敷
9	市内遺跡確認調査	通年	—	試掘・立会	各時代	試掘
10	タカバタケ 高畑遺跡第6次 (報告書作成、発行)		—	区画整理事業	中世	集落跡
11	オカダ タナカ 岡田田中遺跡第2次 (整理作業)	通年	—	区画整理事業	中世	集落跡
12	松本城下町跡本町第8次 (整理作業)	通年	—	民間開発	戦国 ～江戸時代	城下町(町屋・ 推定御使者 宿)
13	トノムラ 殿村遺跡第8次 (報告書作成、発行)		—	保存目的の確認調査	中世	社寺遺跡
14	トノムラ 殿村遺跡第9次 (整理作業)	通年	—	保存目的の確認調査	中世	社寺遺跡
15	オガサワラシ シロアト ハヤジョウアト 小笠原氏城跡林城跡 (報告書作成、発行)		—	遺跡整備事業	中世	城館
16	サン マルアト ドイジリ 松本城三の丸跡土居尻第7・9次 (整理作業)	通年	—	都市計画道路 (内環状北線) 建設事業	江戸時代	城郭・武家屋敷
17	タカバタケ 高畑遺跡第6次 (整理作業、報告書作成)		—	土地区画整理事業	奈良・平安時代 ・中世	集落
18	イデガワミナミ 出川南遺跡16・17次他 (整理作業)	通年	—	道路建設	弥生・古墳 ・古代・中世	集落
19	エリ アノ エリ穴遺跡 遺物編1・遺構編2 (報告書作成、発行)		—	ほ場整備事業	縄文時代	集落

開発工事等による市内遺跡試掘確認調査一覧(平成30年)										
No.	事業者	所在地	原因事業	調査面積 (㎡)	遺跡との関係		遺構等の有無	検出遺構・遺物	備考	期間
1	個人	寿北7丁目	集合住宅	9.6	向原	近接	なし			1月10日
2	民間会社	原	宅地造成	28.7	水汲西原	該当	なし			1月11, 12日
3	学校法人	小屋南1丁目	学生寮建設	6.0	小屋	該当	なし			1月15, 16日
4	民間会社	沢村2丁目	自動車整備工場建	4.8	旧射的場西	該当	なし			1月29日
5	民間会社	北深志1丁目	集合住宅	19.6	松本城跡(北馬出)	該当	あり	北馬出堀、弥生時代土器片	記録保存	2月13日～15日
6	民間会社	波田	宅地分譲	19.5	未確認地域		なし			2月14日
7	民間会社	神田1丁目	宅地造成	6.8	神田	該当	あり	溝状遺構、土師器、須恵器	現状保存	2月20日
8	松本市	元町3丁目	乳児院建設	19.2	大輔原	該当	あり	奈良時代住居址	本調査	2月27, 28日
9	民間会社	岡田松岡	宅地分譲	12.0	トウコン原	該当	なし			2月28日
10	民間会社	内田	店舗建設	9.6	未確認地域		なし			3月7日
11	個人	岡田下岡田	集合住宅	9.6	岡田松岡	該当	なし			3月12日
12	民間会社	村井町南2丁目	事業所解体	15.8	村井	該当	あり	縄文・平安時代土器片	解体時立会	3月13～15日
13	個人	村井町南1丁目	集合住宅	9.6	小原	該当	あり	時代不明溝	記録保存	3月16日
14	民間会社	浅間温泉1丁目	変電所	16.9	大輔原	該当	なし			4月5日
15	民間会社	会田	太陽光発電施設	8.8	斉田原窯跡	該当	なし			4月12日
16	民間会社	岡田松岡	宅地造成	57.8	岡田松岡	該当	なし			4月19日
17	個人	岡田松岡	集合住宅	19.8	岡田松岡	該当	あり	平安時代遺構	記録保存	4月23日
18	松本市	大手2丁目	駐車場造成	15.6	松本城下町跡	該当	あり	江戸時代整地層	現状保存	4月26日
19	民間会社	笹賀	集合住宅	39.0	下二子	該当	なし			5月2日
20	民間会社	野溝東一丁目	宅地造成	25.8	野溝	該当	なし			5月8日
21	個人	野溝西二丁目	集合住宅	10.4	野溝	近接	なし			5月10日
22	民間会社	中央1丁目	ホテル	7.2	松本城下町跡(伊勢町)	該当	あり	江戸時代整地層	発掘調査	5月10, 11日
23	民間会社	双葉	マンション	14.4	出川南	該当	あり	土師器、スクレーパー	記録保存	5月16日
24	個人	中山	浸透枿	4.8	山影	該当	なし			5月22日
25	民間会社	原	宅地造成	28.0	水汲西原	該当	なし			5月24, 25日
26	民間会社	里山辺	宅地造成	67.2	惣社	該当	あり	古墳時代住居址	現状保存	5月29日～6月4日
27	町会	惣社	公民館	6.0	宮北	該当	なし			6月4日
28	松本市	北深志1丁目	消防団詰所	7.2	松本城下町跡	該当	なし			6月8日
29	民間会社	惣社	宅地造成	6.0	惣社	該当	なし			6月14日
30	松本市	城西2丁目	代替地	19.2	未確認地域		なし			6月12, 13日
31	松本市	城西2丁目	遺構確認	8.4	松本城跡西馬出	該当	あり	江戸時代整地層、陶磁器、板	発掘調査	6月14日～19日
32	松本市	県1丁目	雨水貯留施設	32.0	県町	該当	なし			6月4, 21日 7月10, 20日
33	民間会社	惣社	集合住宅	6.0	宮北	該当	なし			6月26日

No.	事業者	所在地	原因事業	調査面積 (㎡)	遺跡との関係		遺構等の有無	検出遺構・遺物	備考	期間
34	民間会社	村井町西1丁目	宅地造成	33.6	未確認地域		なし			7月2, 3日
35	個人	沢村北2丁目	集合住宅	9.6	沢村北	近接	なし			7月9日
36	個人	波田	浸透枺設置	4.8	古神	該当	なし			7月9日
37	個人	野溝東1丁目	個人住宅	7.2	野溝	該当	なし			7月9日
38	民間会社	筑摩3丁目	宅地分譲、共同	8.5	三才	該当	なし			7月11日
39	松本市	沢村2丁目	児童館	14.4	旧射的場西	近接	なし			7月17日
40	民間会社	村井町南1丁目	駐車場造成	4.0	村井	該当	なし			7月23日
41	個人	笹賀	集合住宅	2.5	神戸	該当	なし			8月2日
42	個人	庄内2丁目	集合住宅	13.8	筑摩	該当	なし			8月30日
43	松本市	和田	市道改良	12.0	新村・島立条里	該当	なし			9月3日
44	民間会社	大手3丁目	店舗	7.2	松本城三の丸跡	該当	あり	江戸時代整地層	現状保存	9月5日
45	個人	村井町北2丁目	集合住宅	9.6	高畑	該当	なし			9月6日
46	医療法人	中央2丁目	施設管理棟	22.4	松本城下町跡(飯田町)	該当	あり	整地層、火災層	記録保存	9月19～21日
47	民間会社	岡田松岡	宅地造成	14.4	岡田松岡	該当	あり	平安時代遺物	記録保存	9月28日
48	個人	平田西	個人住宅	7.2	平田本郷	該当	あり	平安時代土師器	記録保存	10月4日
49	松本市	波田	保育園改築	7.2	未確認地域		なし			10月11日
50	県	梓川梓	県道改良	10.8	千間林	該当	なし			10月16日
51	県	空港東	駐車場造成	9.6	未確認地域		なし			10月19日
52	個人	神林	個人住宅	4.0	下神	該当	なし			10月29日
53	民間会社	村井町西1丁目	宅地造成	13.2	小屋	該当	なし			11月8日
54	松本市	和田	未定	4.0	三間沢川左岸	該当	なし			11月12日
55	個人	梓川倭	未定	13.2	氷室西	該当	なし			11月16日
56	民間会社	野溝木工1丁目	店舗	14.4	五輪	該当	なし			11月19日
57	民間会社	平田西	集合住宅	19.6	平田本郷	該当	なし			11月26日
58	個人	大村立石	集合住宅	9.6	大村立石	該当	あり	縄文土器	記録保存	11月28日
59	民間会社	梓川倭	建売住宅	7.2	氷室東	近接	なし			12月11日
60	民間会社	神田1丁目	宅地造成	10.8	神田	該当	あり	平安住居址、土師器、灰釉陶器	現状保存	12月19日



お が み

麻神遺跡 第3次発掘調査

1 発掘調査の概要

調査場所 松本市波田7338番地ほか
調査期間 H30.11.8～H31.1.11
調査面積 300㎡
原因事業 県営畑地帯総合改良事業

2 遺跡の概要

麻神遺跡は松本市波田地区にある遺跡で、唐沢川扇状地の下流に位置します。昔から縄文土器が多く採集されている遺跡で、東京国立博物館所蔵の土面の出土地としても知られています。昭和46・47年の発掘調査（1・2次）では14軒の住居跡と多量の土器石器が発見されました。

2 発掘成果の概要

(1) 発見された遺構

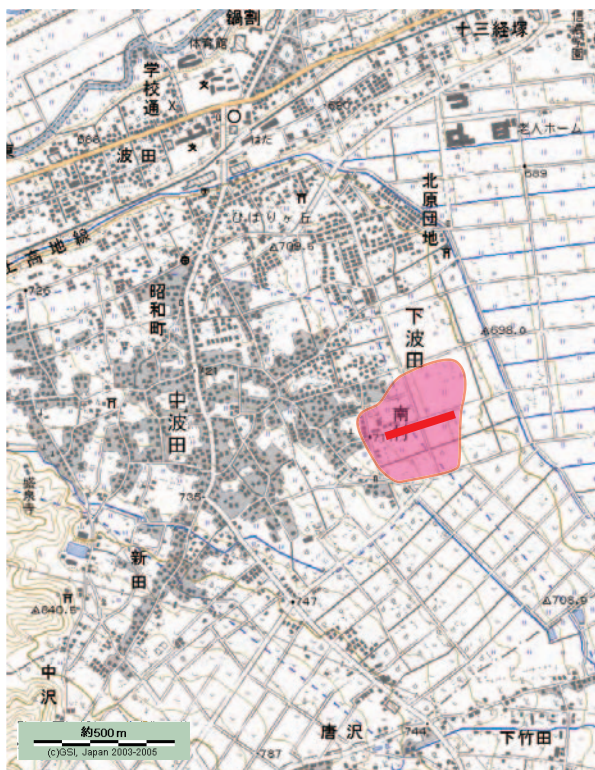
竪穴住居跡 12 軒（縄文時代中期初頭 1、中期後半 11）
土坑 15 基（縄文時代中期初頭 3、中期末 1、他は中期後半）
ピット 31 基（縄文時代中期）、溝 1 条（縄文時代中期）

(2) 出土した遺物

縄文土器（深鉢・浅鉢・吊手土器など）、弥生土器（壺・甕）
石器（石鏃・打製石斧・磨製石斧・凹石・磨石など）、土製品（土偶の破片など）

(3) 発掘調査のまとめ

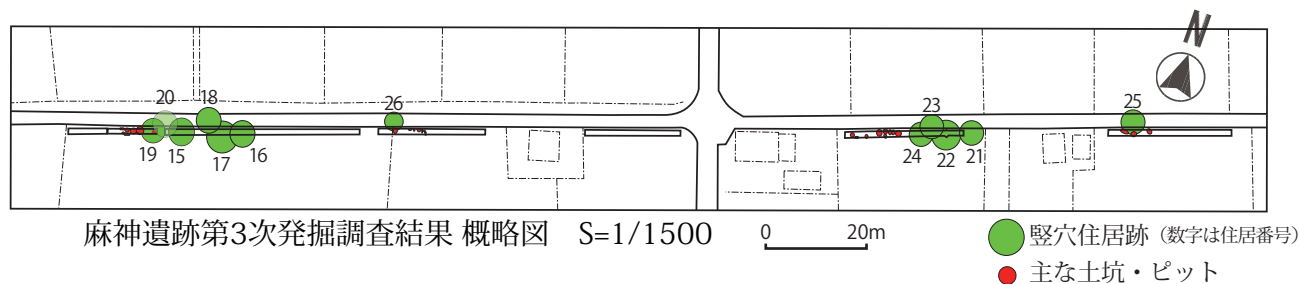
幅1m余のトレンチという狭い範囲の発掘でしたが、今から約4500～5000年前の縄文時代中期の住居跡がまとまって発見されました。多量の遺物が出土し、大規模な集落が営まれていたことがわかりました。また、弥生時代中期（約2200年前）の土器や石器もわずかですが出土し、その時代にも人々が暮らしていた可能性が認められました。



麻神遺跡の位置・範囲と第3次発掘調査地点



発掘は幅1mのトレンチを200mを超える範囲に設定して行いました。



15号住居の石囲炉。半分は調査地外に出る。内部と上部に焼土が見える。



17号住居の石囲炉。わずかに調査地外に出る。



22号住居の石囲炉。幅1mのトレンチに収まらない大きな炉だった。



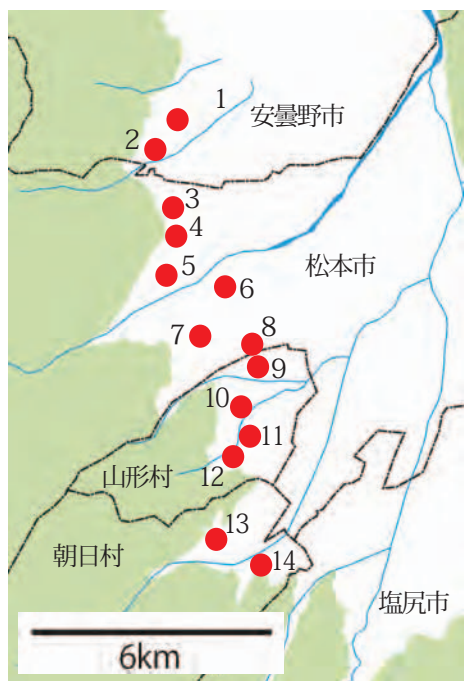
23号住居の埋甕(うめがめ)を真横から見る。底を抜いた土器を逆位に埋設。



左の埋甕の蓋石を発見したところ。上の脇から土器の縁が見えている。



23号住居から出土した縄文土器。ほぼ完全な形で埋まっていた。



西山山麓の縄文中期の大遺跡
(松本盆地南半部)

麻神遺跡と西山山麓の縄文中期集落

麻神遺跡が立地する松本盆地の西山山麓は、縄文時代中期の大規模な集落遺跡が南北に点々と連なっている地帯です。北アルプスから松本盆地へと流れ出る大小の河川によって形成された大規模な扇状地や段丘などの地形上に営まれたこれらの縄文集落は、規模や密集の度合いにおいて茅野市や富士見町など八ヶ岳山麓の縄文遺跡と比べてもそんな色はありません。松本盆地の南半部における現在までの発掘調査の成果は以下のとおりです。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 東小倉遺跡(住居跡53軒) | 8 下原遺跡(住居跡47軒) |
| 2 南松原遺跡(住居跡14軒) | 9 三夜塚遺跡(住居跡23軒) |
| 3 神道原遺跡(住居跡5軒) | 10 殿村遺跡(住居跡29軒) |
| 4 仁王門遺跡(住居跡15軒) | 11 淀の内遺跡(住居跡55軒) |
| 5 荒海渡遺跡(住居跡20軒) | 12 洞遺跡(住居跡21軒) |
| 6 葦原遺跡(住居跡30軒) | 13 熊久保遺跡(住居跡108軒) |
| 7 麻神遺跡(住居跡26軒) | 14 山鳥場遺跡(住居跡14軒) |

事例報告②

大輔原遺跡 第10次発掘調査

1 調査の概要

- (1) 遺跡の所在 松本市元町三丁目 312-3
- (2) 原因事業 乳児院建設事業
- (3) 調査期間 平成30年4月10日～6月12日
- (4) 調査面積 約250 m²

2 遺跡の概要

大輔原遺跡は、松本市北東の本郷地区に位置する遺跡で、本郷地区には、縄文時代から平安時代にかけての遺跡が広がっています。古墳時代には多数の古墳が築造され、古墳の密集地帯でした。平安時代には集落が多数見られましたが、普通の集落ではあまり見られない古瓦・円面硯・八稜鏡などの遺物も出土しました。これらは平安時代に筑摩郡に置かれていたとされる信濃国府や廃寺跡との関係も示唆しますが、有力な遺構が確認されておらず、詳細は不明です。

大輔原遺跡はこれまでの調査から、古墳時代後期から平安時代前期を中心とした遺跡であることが分かってきました。遺物は円面硯などが見つかっており、特殊な集落であった可能性が考えられます。



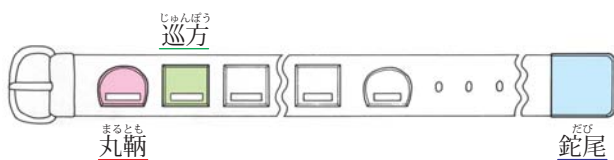
調査位置図



調査地全景

3 過去の調査

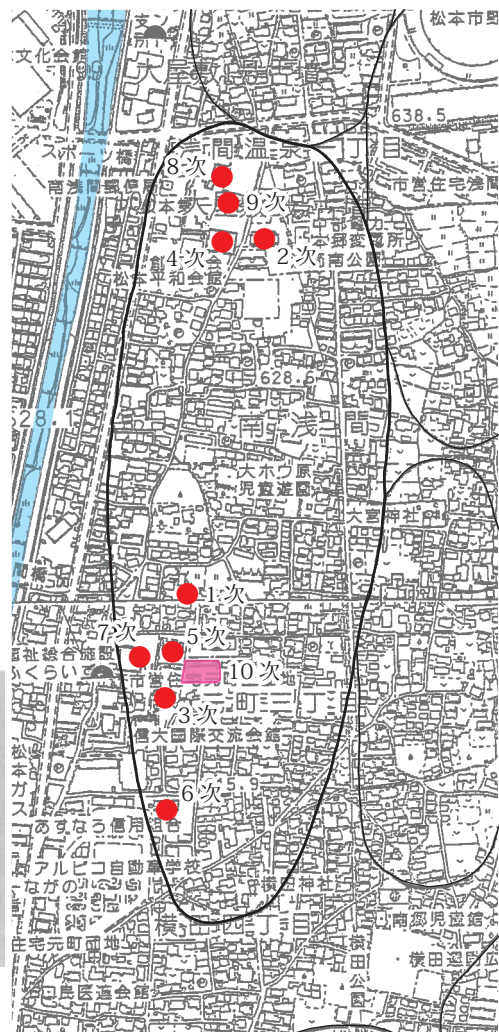
大輔原遺跡は、昭和 61 年の第 1 次調査から、これまでに 9 回の調査が行われてきました。遺構は古墳時代後期から平安時代前期にかけての竪穴住居跡 43 軒などが確認されており、特に奈良・平安時代前期のものが多く見られます。遺物は遺跡の北側の調査（第 2・4・8 次）で、普通の集落ではあまり見られない円面硯や青銅製の巡方（役人が付けるベルト状の帯に付いている飾り金具）などが出土しています。これらの成果から、大輔原遺跡は古墳時代後期から平安時代前期を中心とした遺跡で、特殊な集落であった可能性が考えられます。



とってつきちゅうくうえんめんけん
把手付中空円面硯
(第 4 次調査出土)



円面硯
(第 4 次調査出土)



大輔原遺跡の過去の調査地点

過去の調査成果一覧表

調査次	調査年	調査面積	時代	成果
1	昭和 61 年	約 750㎡	古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡 5 軒（古墳後期 1、奈良 1、平安前期 3） 縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器
2	平成 1 年	250㎡	奈良・平安時代	竪穴住居跡 1 軒（奈良）、土坑 20 基 土師器、須恵器（円面硯）、灰釉陶器、石器（すり石）
3	平成 4 年	700㎡	平安時代	竪穴住居跡 1 軒（平安前期）、土坑・ピット 4 基、溝 2 本 縄文土器、土師器、須恵器
4	平成 5 年	712㎡	古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡 12 軒（古墳後期 1、奈良 4、平安前期 7）、掘立柱建物跡 12 棟、土坑 6 基 土師器、須恵器（円面硯、墨書土器）
5	平成 6 年	887㎡	奈良・平安時代 中世	竪穴住居跡 3 軒（奈良・平安）、掘立柱建物跡 3 棟、墓址 2 基（奈良・平安、中世）、土坑・ピット 49 基、溝 2 本 土師器、須恵器、黒色土器
6	平成 7 年	約 550㎡	平安時代	竪穴住居跡 7 軒（平安）、掘立柱建物跡 1 棟、竪穴状遺構 3 基、土坑・ピット 57 基、溝 1 本 土師器、須恵器、金属製品（鉄鏃）
7	平成 8 年	2535㎡	縄文時代 平安時代	竪穴住居跡 2 軒（平安前・中期）、土坑・ピット 7 基、流路 1 本 縄文土器、土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、石器（打製石斧、こもで石）
8	平成 9 年	470㎡	古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡 10 軒（古墳後期 2、奈良 6、平安前期 2）、掘立柱建物跡 1 棟、土坑・ピット 85 基、溝 1 本 土師器、須恵器、灰釉陶器、石器、青銅製品（巡方）
9	平成 10 年	290㎡	平安時代	竪穴住居跡 2 軒（平安前期）、土坑・ピット 62 基、溝 1 本 土師器、須恵器、灰釉陶器

4 今回の調査成果

(1) 遺構 竪穴住居跡（地面を平坦に掘り込んだ半地下式の建物）

：7軒（■奈良 ■平安前期）

土坑・ピット（用途不明の穴）：17基 ■（時期不明）

石列 ■：2本 ■（近世）

(2) 遺物 縄文時代 ■：石鏃、打製石斧

奈良・平安時代：土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器

近世 ■：香炉蓋、甕



竪穴住居（復元）

出典：http://www.city.shiojiri.lg.jp/tanoshimu/bunkazai/hiraideiseki/hiraideiseki.html



住居内のカマド

出典：http://www.mahoron.fcp.or.jp/sisetsu/yagai_naraj.htm



奈良・平安時代の食器

出典：http://www.mahoron.fcp.or.jp/nenpou/nenpou2001_20.htm



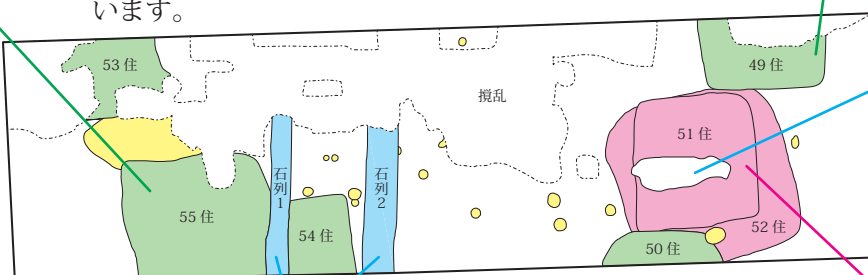
55住 完掘状況
壁際にはカマドがあり、周辺の土は被熱により赤く焼けています。



カマドの周辺からは土師器の甕（煮炊具）などが見つかりました。



49住 カマド検出状況
周辺からは黒色土器の杯が完形で出土しました。



近世の甕



石列1・2
溝状の遺構に拳大の石がぎっしり詰まったものが、平行に2本確認されました。



51住の壁際にはカマドを構築する石が良好に残っていました。



51・52住 完掘状況
時期の近い2軒の住居跡が重なり合って確認されました。

5 調査のまとめ

- (1) 奈良時代から平安時代前期にかけての竪穴住居跡 7 軒と使用していた道具類が見つかりました。第 3・5・7 次調査で確認した集落が更に東まで広がることが分かりました。
- (2) 近世（江戸時代）と推定される石列や甕が見つかりました。用途は不明ですが、この土地が近世に利用されていたことを窺い知ることができました。
- (3) 縄文時代の遺構は確認されませんでした。石鏃・打製石斧が数点見つかりました。調査地付近には縄文時代の遺構がある可能性が考えられます。

6 大輔原遺跡と周辺の遺跡（大村地区を中心に検討）

- ・縄文時代：中期には大村立石遺跡で集落が確認されています。大村遺跡・大村古屋敷遺跡・大輔原遺跡では、遺構は確認されていませんが、遺物が見つかっています。
- ・弥生時代：後期には大村古屋敷遺跡で集落が繁栄しました。
- ・古墳時代：中期には大村古屋敷遺跡で集落が確認され、後期になると大村遺跡・大村古屋敷遺跡・大輔原遺跡で集落が繁栄しました。
- ・奈良・平安時代：奈良時代・平安時代前期は大村遺跡・大輔原遺跡、平安時代中・後期は大村遺跡・大村古屋敷遺跡で集落が繁栄しました。そして、大輔原遺跡からは円面硯・巡方、大村遺跡からは円面硯・古瓦・丸^{まるとも}軈^{たび}・鉋尾、大村古屋敷遺跡からは古瓦・八稜鏡が出土する等、特殊な遺物の出土が見受けられます。



- ・集落は縄文時代から平安時代の長期にわたって営まれていました。特に弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代に集落の繁栄が窺えます。弥生時代は大六川周辺で集落が形成したとされます。
 - ・古墳時代の本郷地区には24基の古墳が見られ、大村地区では桃仙園古墳が確認されています。東山山麓一帯は古墳の密集地帯であり、その周辺に集落が発展していたと思われます。
 - ・平安時代には筑摩郡に国府が置かれていたという記録があり、大村地区周辺はいくつかの候補地が考えられています。これまでの発掘調査で特殊な遺物が出土する遺跡は複数確認されていますが、有力な遺構は確認されておらず、詳細は不明です。
- 

遺跡名	出土遺構・特記遺物
大村遺跡	竪穴住居跡（古墳後期14、奈良・平安72、不明1）
	円面硯、古瓦、丸軋、鉈尾
大村古屋敷遺跡	竪穴住居跡（弥生後期18、古墳中・後期17、平安22、不明10）、墓（平安1、中世3）
	古瓦、八稜鏡
大輔原遺跡	竪穴住居跡（古墳後期4、奈良・平安前期46）、墓（奈良・平安1、中世1）
	円面硯、巡方
大村立石遺跡	竪穴住居跡（縄文中期2）
大村前田遺跡	竪穴住居跡（奈良2、平安1）
大村新切古窯址	
桃仙園古墳	



松本城外堀跡 西外堀第3次調査、第4次調査

—松本城南・西外堀整備事業に伴う試掘調査—

1 調査の概要

(1) 第3次調査

- ア 遺跡の所在 松本市丸の内4番1号
イ 調査の目的 松本城南・西外堀整備事業に伴う試掘調査
ウ 調査期間 平成30年1月15日～3月30日
エ 調査面積 平面積約58m²（トレンチ5）

大土木工事！松本城二の丸の造成



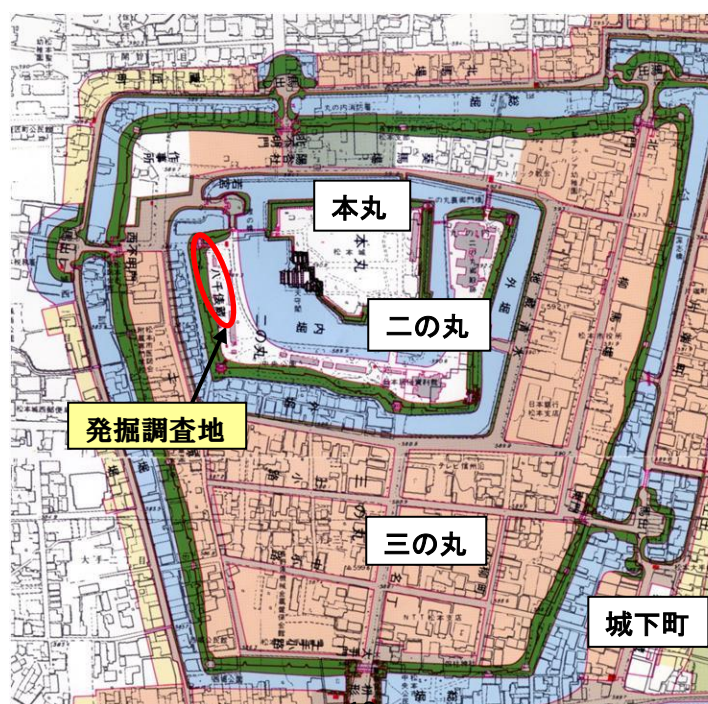
(2) 第4次調査（上半期）

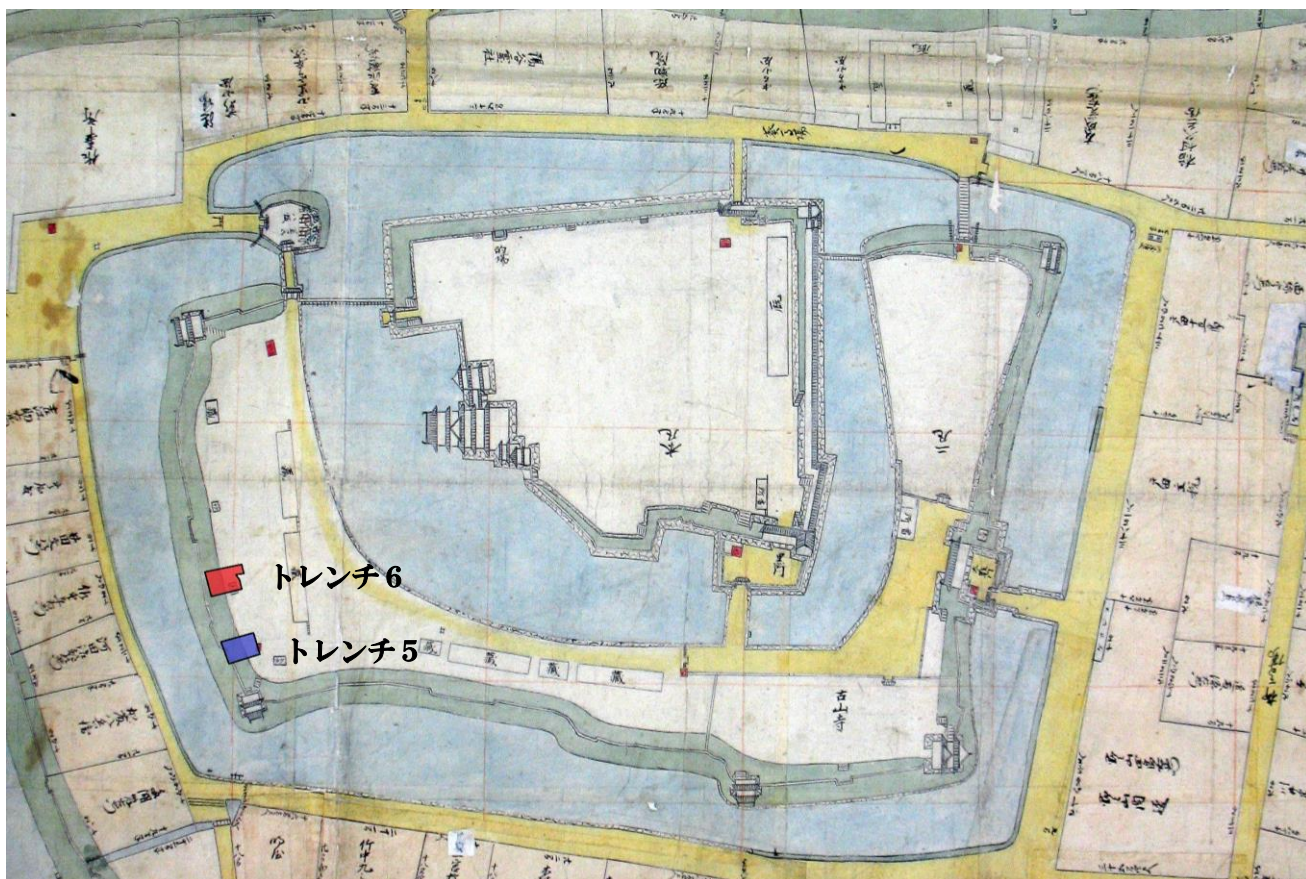
- ア 遺跡の所在 松本市丸の内4番1号
イ 調査の目的 松本城南・西外堀整備事業に伴う試掘調査
ウ 調査期間 平成30年6月25日～9月30日
エ 調査面積 平面積約51m²（トレンチ6）

(3) 調査地の位置

松本城は本丸・二の丸・三の丸と、それぞれを囲む3重の堀（内堀・外堀・総堀）が設けられた城郭部分と、その外側に位置する城下町で構成されています。堀は、外敵の侵入を遮る防御的な機能のほか、武家地と町人地を区別する意味もありました。これらの堀は、明治維新後に近代化の流れの中で役目を終え、徐々に埋められていきました。南・西外堀は、大正8年（1918）頃から埋め立てが始まり、現在に至っています。

今回の調査は、埋められた南・西外堀の周辺の整備事業にあたり、西外堀や堀に関連する土塁の位置などを確認する目的で実施しました。





絵図上の調査地の位置 (トレンチ5、6) 享保十三年秋改松本城下絵図

2 調査の結果

(1) 第3次調査 (トレンチ5)

調査の概要

外堀土塁の範囲確認のため、長さ10.5m、幅5.5mのトレンチ(試掘溝)を現地地表から最深で2.7mまで掘削

調査成果

- ア 非常に細かく積み、突き固めたの人為的な盛土層を確認。とても丁寧な盛り土
⇒二の丸と三の丸の2mの段差は、人為的な盛土で造成されてつくられていた
- イ 外堀土塁の二の丸側裾部の盛土とみられる土層を確認
- ウ 調査区西端付近で、二の丸よりも古い段階の土塁状の盛土を確認
- エ 深さ約2.5mで古い段階の土塁状の盛土に伴う整地を確認

今年の調査ではどんなことが分かったのかな？



オ 出土遺物

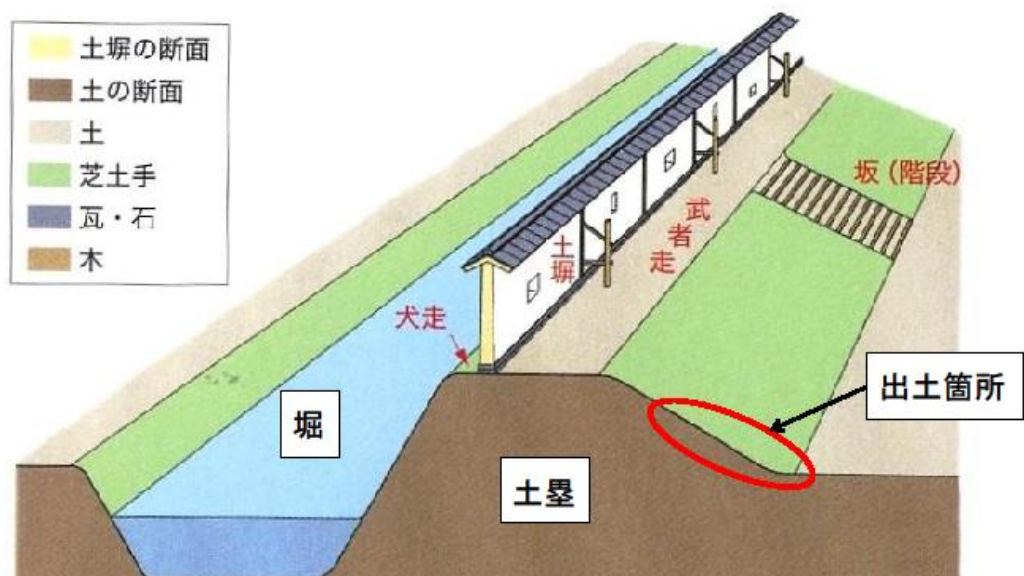
陶磁器・・・中国産（青磁）、瀬戸・美濃産（灰釉碗、灰釉皿、古瀬戸碗など）、
平安時代の灰釉陶器など

土器・土製品・・・内耳鍋、かわらけ、るつぼ（鍛冶の道具）など

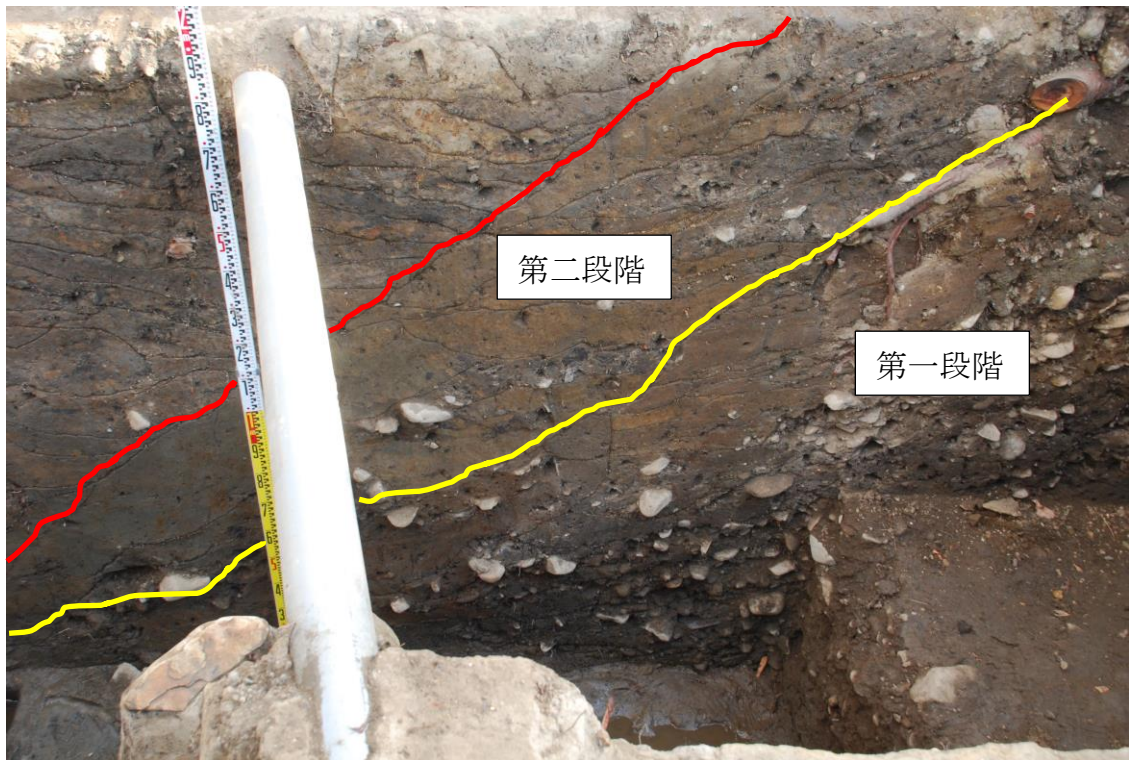
金属器・・・鉄砲玉など



二の丸土塁の裾部と推定される箇所 土層壁面写真



堀と土塁の模式図（『城のつくり方図典』より抜粋）



二の丸の整地と土塁状構築物 土層壁面写真

(2) トレンチ 6 (第 4 次調査)

調査の概要

外堀二の丸土塁側裾部位置の確認のため、長さ 8.5 m、幅 6 m、深さ 2.5 m のトレンチを掘削

調査の成果

- ア 松本城二の丸を構築した際に人為的に盛られた非常に細かい土層を確認した。
- イ 絵図から推定した土塁裾部地点では、人為的に割り欠いた石の集まりが確認された。
- ウ 西端付近では二の丸よりも古い段階の土塁状構築物を確認した。2 段階に重なるように構築されており、1 段階目の裾部では人為的に割り欠いた石を含む石の集まりを確認した。
- エ 1 段階目の土塁状構築物を東西に掘り込む遺構（竪穴状遺構）を確認した。
- オ 二の丸整地層の下層に、古い整地層を確認した。（松本城二の丸構築以前の整地面）

カ 出土遺物

陶磁器・・・中国産（青磁）、瀬戸・美濃産（灰釉碗・皿、古瀬戸平碗）など
土器・土製品・・・須恵器、内耳鍋、かわらけ、ふいご（鍛冶の送風管）など
金属器・・・古銭（宋銭など）など

⇒ 陶磁器は、築城期（16 世紀末）より古い 15 世紀から 16 世紀中頃のものが複数みつかった。



二の丸整地に先立つ土塁状構築物と二の丸整地 土層断面写真



写真の下の方に写っている一番大きな石は長辺60cm、短辺24cmもあるとても大きな石で、人の手で加工されたあとも残っているんだ！どんな目的でここに石を並べたんだろう？



土塁状構築物の裾部で確認された石積み及び、石の集まり 検出状況写真

(3) 本年調査の出土遺物（抜粋）



金属製の鉄砲玉



内耳鍋（土鍋）



国産陶器

かわらけ

松本城築城期前後の遺物

松本城が造られた時期のものはもちろん、とても古い時期の遺物もたくさん出土したんだ！！



中国製染付皿（青花）



灰釉陶器の破片



古代以前の遺物（土器など）

3 調査のまとめ

(1) 昨年の調査に引き続き、大規模な盛り土を確認

昨年調査を行った二の丸の南西部と同様、人為的に2 m以上も細かく丁寧に土を盛り、しっかりと突き固めて造られていた。

(2) 松本城二の丸の構築以前に土塁状の構築物があったかも・・・

それぞれの調査区の西端では、土層の重なり状況などから、松本城二の丸よりも古い段階で造られた土塁状の盛土が確認された。土塁状の盛土中からは、松本城築城期(文禄2～3年頃 1593～94)よりも古い16世紀中頃に作られた陶磁器が出土している。土塁状構築物に伴うと考えられる整地層も確認されていることなどと合わせて考えても、二の丸構築よりも以前に土塁状の構築物として存在していた可能性がある。

(現時点では、二の丸造成工事の際の土留めや目印のための構築物であった可能性も考えられます。)

<参考>



当時の細かな土木工事を見て取れる二の丸の整地 (土層断面写真)

3～10 cm程の厚さで細かく土が積まれている、土はとてもよく締まっている。

(平成29年度 松本城外堀跡南外堀 第3次調査 トレンチD)

松本城三の丸跡土居尻第9次調査

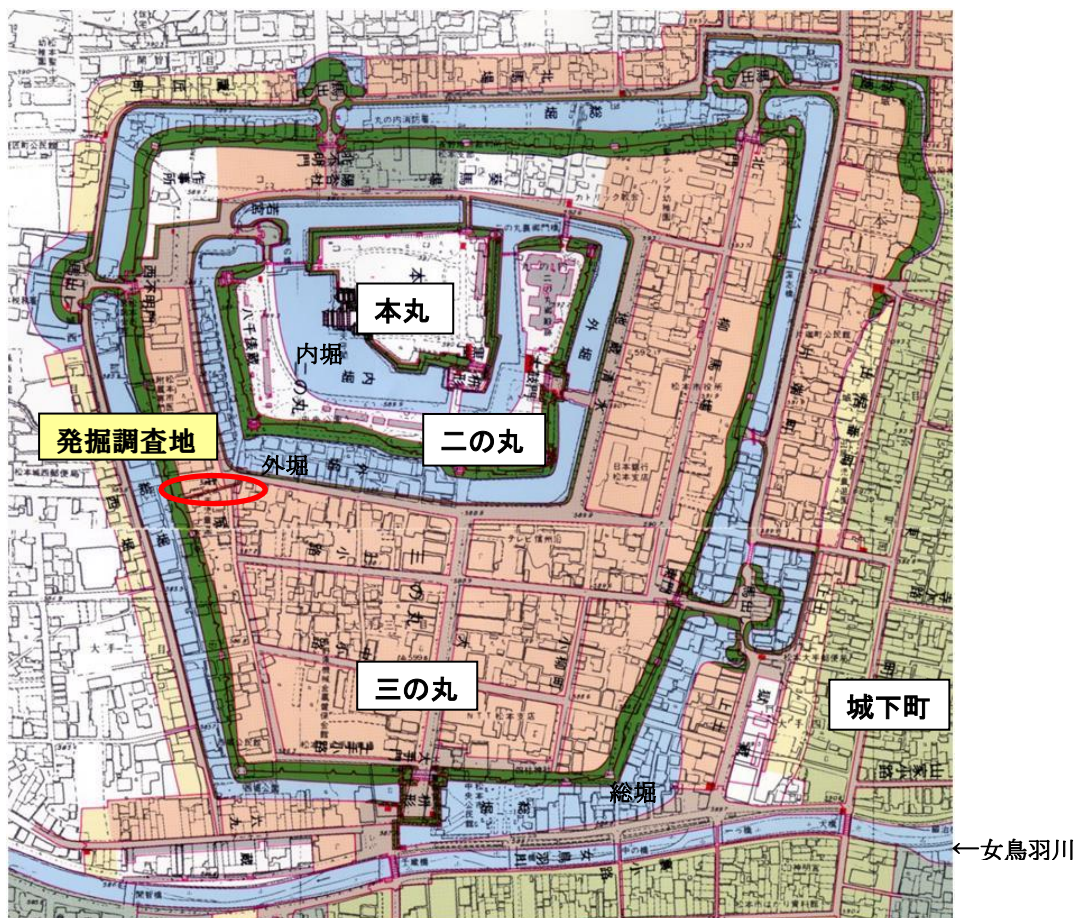
驚きの排水技術！現代によみがえった石組水路！！

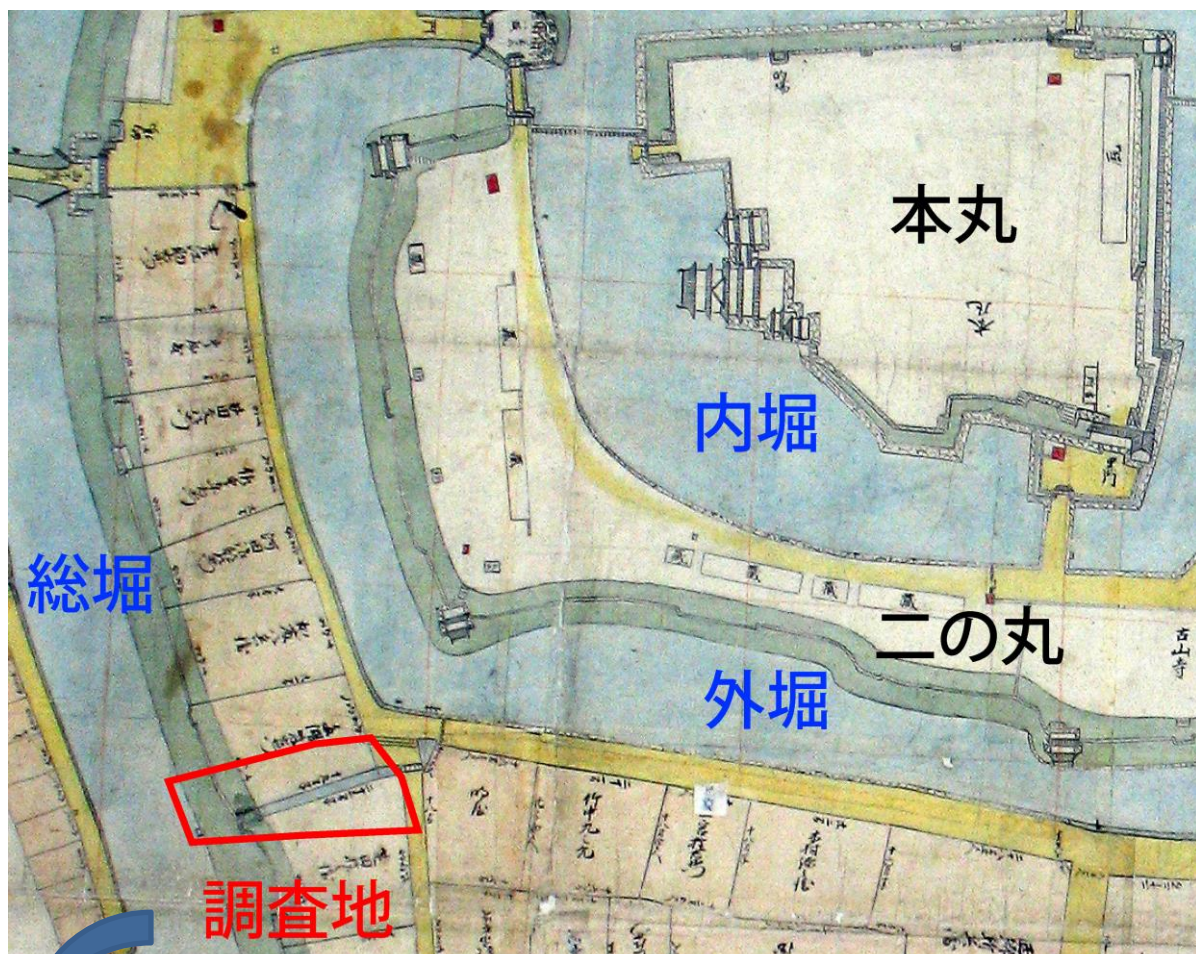
1 調査地の概要

- (1) 遺跡の所在 松本市大手
- (2) 調査の目的 都市計画道路・内環状北線整備事業に伴う緊急発掘調査
- (3) 調査期間 平成28年10月～平成31年2月
- (4) 調査面積 約1,800㎡
- (5) 調査地の位置



松本城は本丸・二の丸・三の丸と、それぞれを囲む3重の堀（内堀・外堀・総堀）を設けた城郭、そしてその外側の城下町で構成されます。調査地は三の丸の西端にあたり、中～上級武家の屋敷地や総堀土塁のほか、外堀の水を総堀へ排水する石組水路が発見されています。

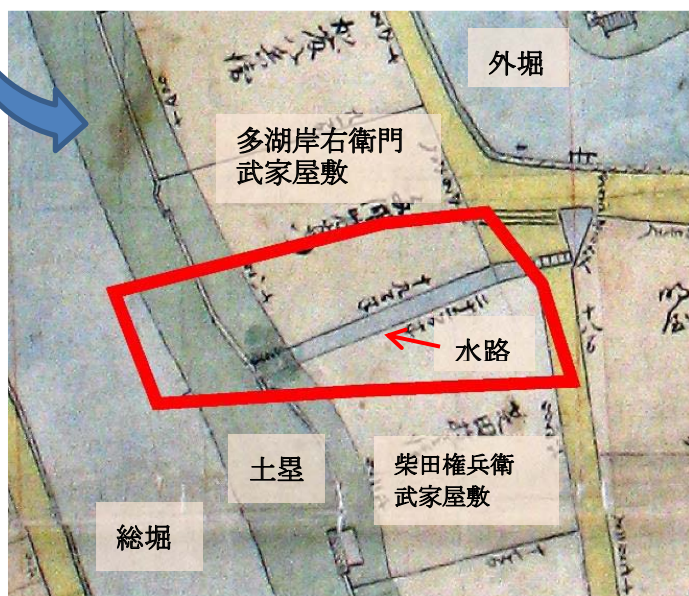




絵図上の調査地の位置

「享保十三年秋改松本城下絵図より(1728)

下図は部分拡大



水路北側：多湖岸衛門（250 石）

水路南側：柴田権兵衛（220 石）

水路は、外堀から武家屋敷地の間を通り、総堀土塁を抜けて総堀に接続していました。

絵図には、総堀から城下町外に向けた水路が複数箇所描かれています。

2 調査の結果

(1) 発見された遺構

ア 石組水路

- ・外堀の水を総堀へ流し、水位調整をしていた排水用の水路
- ・開設時期は記録がなく不明。築城期に設けられたものか？
- ・埋められたのは昭和 30 年頃（下水配管図や出土遺物から確認）
- ・これまでの調査で、改修を繰り返しながら 350 年以上も使用された痕跡が見つかっています（昭和 30 年頃、下水配管を埋設するために石組水路は埋められました）
⇒今年度は西側を中心に調査を行い、水路の出口付近の様子が新たに判明しました
- ・水路の一部は現地保存が決まり、調査と平行して保存作業を行いました



石組水路完掘状況（東から）

石組水路の現地保存

- ・本調査は、開発に伴う記録保存の発掘調査として開始しました。

⇒調査を進めていくと、遺構の残存状況が良く、戦国時代～昭和まで使われたインフラ遺構として、松本城の史跡としての価値をさらに高める重要なものであることが判明しました。こうした遺構は、全国的に見ても調査事例が少なく貴重なものであるため、道路建設に支障のない箇所（全体の約 7 割）を道路基盤下に現地保存しました。



水路の埋め戻し作業

遺跡を掘削した際の発生土ではなく、石組保護のため砂と砂土嚢^どを使用し埋め戻していきます。

石組の隙間にまんべんなく砂を詰め込むことで、石が動かないように固定する目的もあります。

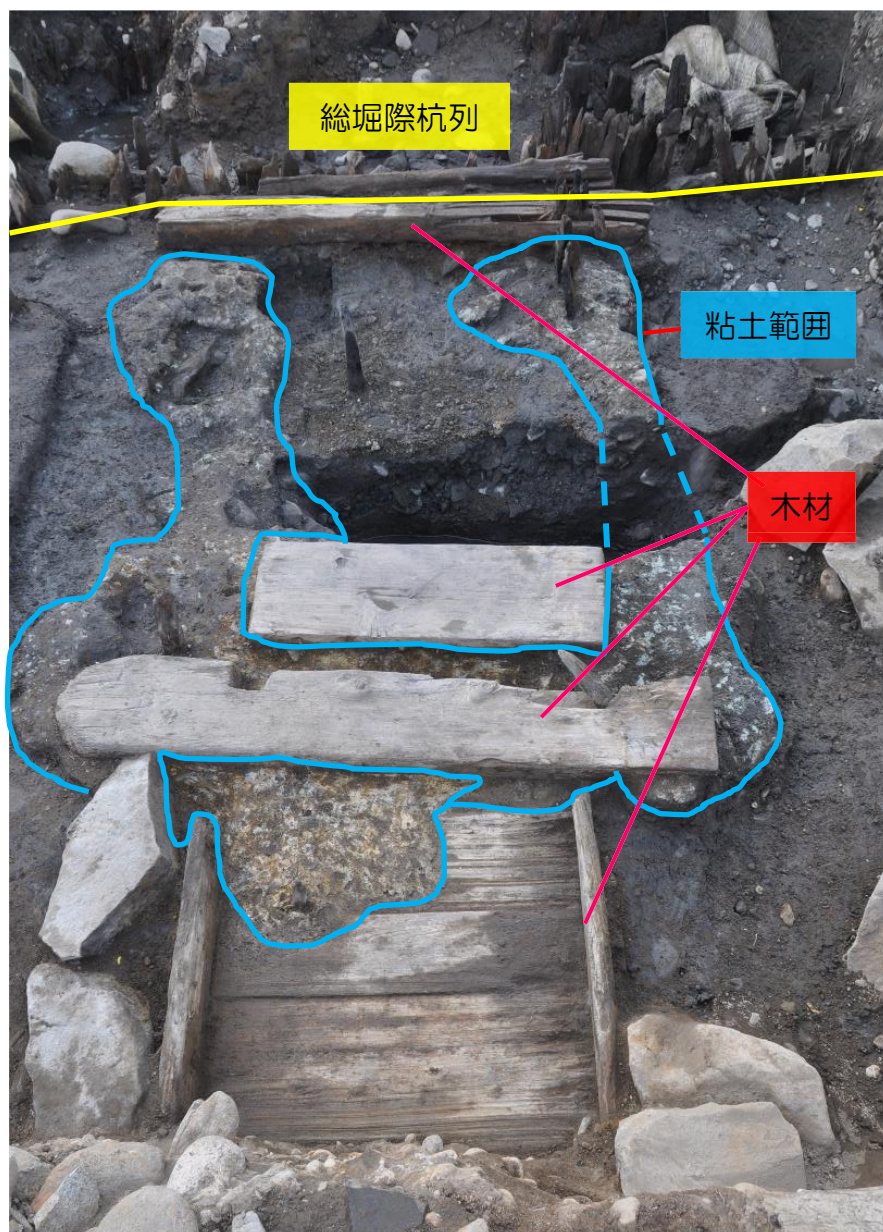


埋め戻し直後の水路

石の手前と表面を、砂と砂嚢で十分な厚みまで保護した様子です。

この後さらに碎石によって埋め戻すことで完了となります。

出口付近に凝らされた排水の工夫



水路底面に敷かれた木材

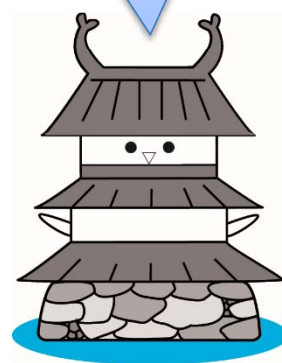
近世期の水路底面に設置された板状の木材です。この場所以外の水路底は素掘りの状態で、総堀への接続部分のみこのような施設が認められます。

木材周辺に分布する粘土

木材の上下部と周囲には粘土が分布していました。この粘土は、江戸時代の松本城下一帯で水道施設の waterproofing に使われていたものとよく似ています。

色々な工夫をしながら、水路を大切に使い続けてきたんだね！！

- ・ 何のために木材を設置したのか？ ⇒ さまざまな仮説が考えられます
 仮説 1：水流により、土塁裾部が崩落するのを防ぐ
 仮説 2：外堀から総堀へと流す排水中の堆積物（土砂やごみなど）を、総堀直前で留めておくための排水の工夫か
- ・ 粘土を貼った目的は？
 仮説 3：木材の隙間に詰められていることから、水漏れによる土塁の崩落を防ぐためか…



イ 総堀落ち際に並ぶ杭列

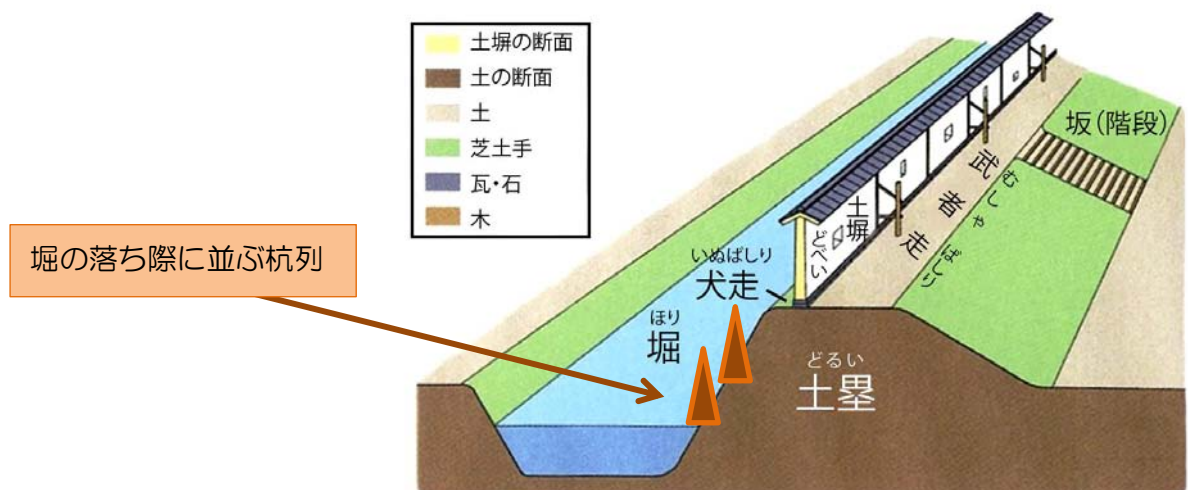
- ・調査区西端には、南北に並ぶ杭列を確認
隣接する土居尻5次調査で見つかった、西総堀土塁裾部の杭列に連なるもの
- ・杭には、先の尖ったものや、丸太のように太いものなどいくつかの種類があり、敵の侵入防止や土塁の崩れを防ぐなどの役割があると考えられます。



総堀落ち際にみつかった杭列

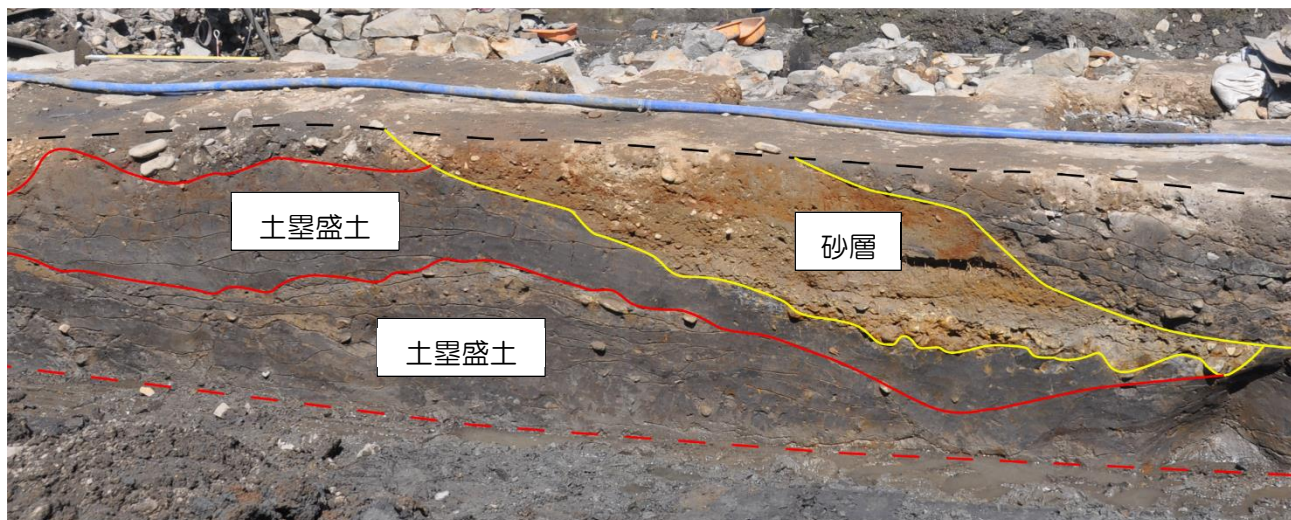
土塁と堀の構造模式図

『城のつくりかた図典』より（一部改変）



ウ 総堀土塁の痕跡

- ・西総堀土塁は大正 10 年頃には崩され、なくなってしまいました。
⇒現在は西総堀土塁公園に一部が残り、往時の様子を窺い知ることができます
- ・発掘調査の結果、現在の地表面より下に土塁盛土の一部が残存することを確認。
- ・土塁の両裾部からは多量の瓦が集中して出土。
⇒土塁上にあった土塀の屋根瓦が廃棄されたものか？



土塁盛土の断面

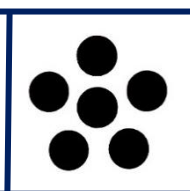


土塁裾部の瓦集中

大量の瓦片に混じり、歴代藩主の家紋が入った軒丸瓦や、鯨瓦の破片などが出土しました。



たちおもだか
立沢瀉紋
(水野氏)



はなれむつほし
離れ六ツ星紋
(戸田氏)



しゃちがわら
鯨瓦の破片



水野氏

戸田氏

(2) 出土遺物

- ・ 石組水路からは、江戸時代～昭和 20 年代までの幅広い時期の遺物が出土
- ・ 松本城総堀土塁構築前の土層から、中世のものと考えられる木製品などが出土



きしやどびん
汽車土瓶

明治後半～昭和 30 年代頃
まで、駅弁とともに売られ
ていたお茶入りの土瓶
角型のは大正時代の
終わり頃から昭和にかけ
て作られたものか



肥前産の磁器

江戸時代、現在の佐賀県で
焼かれた磁器の蓋



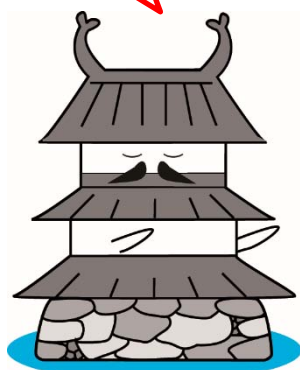
ききとうば
中世の笹塔婆

表面には墨書で経文が書
かれている。供養のためと
考えられます。

3 まとめ

- (1) 石組水路の一部を完掘した結果、出土遺物などから江戸時代から昭和 30 年頃まで、改修を繰り返しながら使われ続けてきた遺構であることが確認できました。
- (2) 石組水路はただ水を排水するだけではなく、様々な工夫と技術が施された、松本城にとって大変重要なインフラ設備であったと考えられます。
- (3) 大正 10 年頃に埋められた総堀と土塁の範囲を改めて確認できました。総堀落ち際に並ぶ杭列は、当時の防御意識や土木技術を伺い知る手がかりとなりました。

松本城の中でも、とても
大事な場所だったんだ
ね！！



作業風景（総堀杭列を掘り出す作業）



現地説明会の様子



松本城下町跡 本町 8 次調査と「松本銭」

～松本で造られた幻の寛永通宝出土か！？～



1 銭貨と寛永通宝について

日本の貨幣鑄造は奈良・平安時代の皇朝十二銭鑄造の後、およそ 650 年後の江戸時代に寛永通宝鑄造が行われるまで、中国からの輸入銭に頼っていました。

江戸時代に入ってすぐは、中世以来の渡来銭や私鑄銭*のほか、各地の大名等の下で新規に鑄造された銭も加わり、銭貨流通は混乱していきます。17 世紀中ごろに江戸幕府は寛永通宝を大量に供給し、渡来銭の使用を停止することで、銭貨の体系を一元的で明瞭なものにしていくことに成功しました。江戸幕府は、金・銀・銅の三貨を特定の座に命じて鑄造させて全国に流通させました。金貨、銀貨は慶長期に生産体制が整いますが、銭貨の生産は、足尾銅山等で銅の生産量が増加する寛永 13 年まで待たなければなりませんでした。

※私鑄銭とは、公的に鑄造されたものではなく、渡来銭を模造したものや無文銭のこと。

江戸時代前半の寛永通宝鑄造に関わる年表

和暦	西暦	事柄
慶長 5・6 年	1600・1601	江戸幕府が金座・銀座を設置
慶長 13 年	1608	永楽銭廃止
寛永 13 年	1636	江戸、坂本（近江）
寛永 14 年	1637	豊後岡、長門、備後、 <u>信濃松本</u> 、越後高田、三河吉田、水戸、仙台で鑄造開始
寛永 16 年	1639	井之宮（駿河）で鑄造開始
寛永 17・18 年	1640・1641	銭の供給が増加し、銭相場下落が顕著となり幕府から鑄造の禁止令が出る。
承応 2 年	1653	建仁寺（京都）で鑄造開始
明暦 2 年	1656	沓谷（駿河）、浅草鳥越（江戸）で鑄造開始（これ以前を「古寛永」）
寛文 8 年	1668	亀戸（江戸）鑄造開始（「文銭」）
寛文 10 年	1670	寛永通宝以外の銭貨通用が禁止される
元禄 10 年	1697	全国各地で大規模鑄造が始まる（これ以後を「新寛永」）
明和 2 年	1765	金座・銀座が銭貨鑄造を兼任することになる

参考：西川裕一 1999 「江戸期三貨制度の萌芽 ―中世から近世への貨幣経済の連続性」 『金融研究』第 18 巻第 4 号 日本銀行金融研究所
 大貫摩里 1999 「江戸時代の貨幣鑄造機関（金座、銀座、銭座）の組織と役割 ―金座を中心として」 『金融研究』第 18 巻第 4 号 日本銀行金融研究所
 梅崎恵司 2008 「福岡藩黒崎鑄銭場」 九州と東アジアの考古学 『九州大学考古学研究室 50 周年記念論文集』

2 松本銭座について

当時、7万石という、小藩であった松本に銭座が置かれた理由は、時の城主松平直政が徳川將軍家と親戚関係にあったことや直政自身が強く要請したことなどが考えられます。

鑄銭の請元となったのは、松本の町役人を代々務めた今井家で、同家には当時の鑄型の棹がいついたままの枝銭と許状が代々伝えられてきました。そして、平成3年に、その枝銭と許状が今井家から松本市に寄附されました。許状は、寛永13年12月27日、松本藩の奉行人7名の連署で今井勘右衛門あてに書かれています。内容は、新銭の鑄造を許可するので間違いなく用意して鑄造するように、また、今後は他の者が願い出ても許可しないという旨が記されています。

銭座の置かれた場所は、一説によると鍋屋小路と言われているが、現在のところ発掘調査により特定はされてはいません。

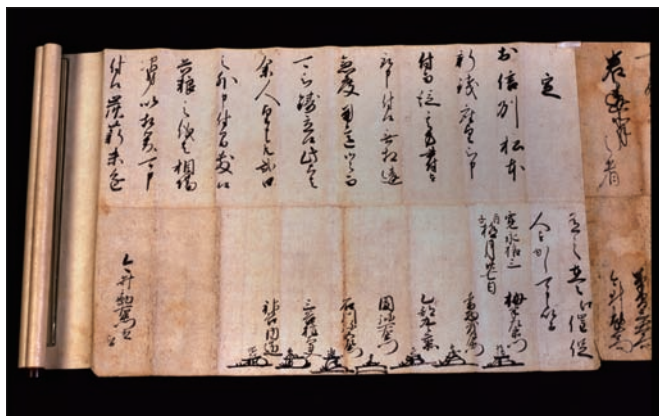
松本銭鑄造関連の年表

和暦	西暦	事柄
慶長11年	1606	今井勘右衛門が肝煎職に任命される
慶長18年	1613	飯田町に飯田からの御奉公人衆や職人を住ませる
寛永10年	1633	松平直政が松本藩主となる
寛永13年	1636	今井勘右衛門が幕府に銭座の開設を出願し、許可される。
寛永14年	1637	松本に寛永通宝鑄造所がつくられる
寛永15年	1638	松平直政が松江（出雲）に移封し、川越（武蔵）から堀田正盛が入封する
寛永17年	1640	銭座解散
昭和43年	1968	松本銭座記念碑（旧市民会館の北側に建立→現市民芸術館の南側に移設）
平成3年	1991	今井家に伝わる枝銭が市に寄贈
平成7年	1995	枝銭が市の重要文化財指定される
平成30年	2018	平成27・28年に本町8次調査での出土品が松本銭とその鑄造に関わることが判明

参考：1995「松本市史第Ⅱ巻 歴史編2近世」松本市、2004「よみがえる城下町・松本」郷土出版、1998「松本のたから」松本市教育委員会



松本銭座記念碑



今井勘右衛門宛の許状（松本市立博物館所蔵）

3 松本城下町跡本町第 8 次調査について

(1) 調査の概要

- ア 調査地 : 松本市中央 2 丁目 (現・信毎メディアガーデン)
- イ 調査原因: 信濃毎日新聞社松本本社社屋移転新築事業
- ウ 調査期間: 平成 27 年 8 月 3 日～平成 28 年 9 月 13 日
- エ 調査面積: のべ 4177m² (第 1～5 検出面の合計)



18 世紀後半から 19 世紀初頭の様子

(2) 遺跡の概要

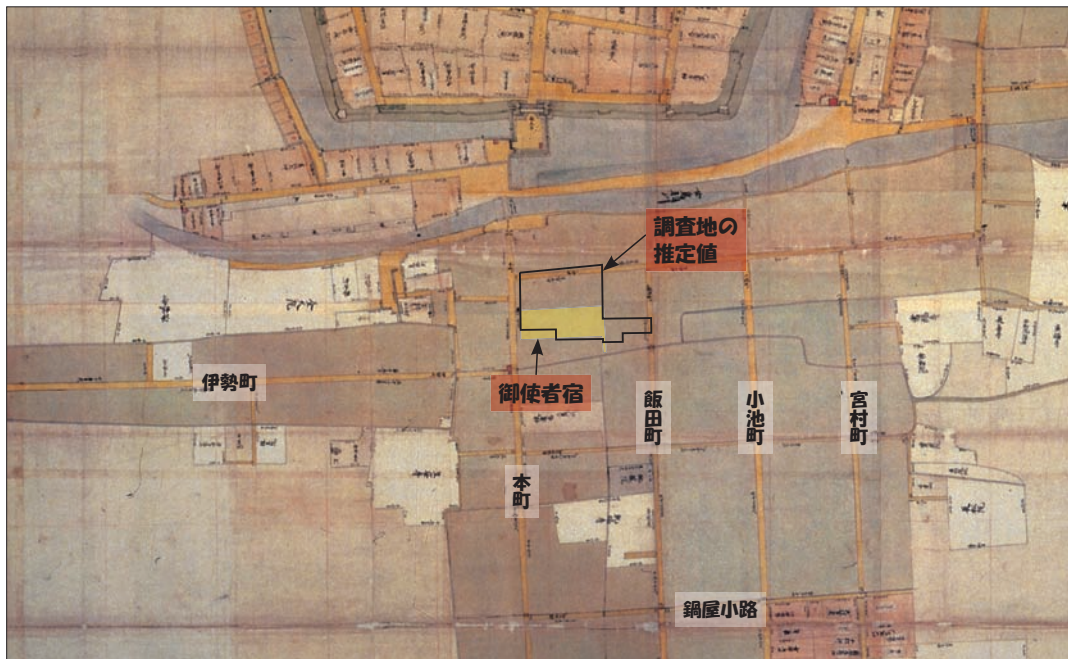
本調査地が位置する本町は、松本城下町の町人地です。松本城下町は、善光寺街道沿いに造られた本町・中町・東町のいわゆる親町 3 町を軸に形成され、さらにその親町から 10 町の枝町が伸びています。このうち本町は、内外の流通拠点として様々な品物を扱う問屋などの大店が集中し、商人町の様相を呈していました。

(3) 調査地点について

今回の調査地については、古絵図をみると、調査地北半に数件の町屋、南半に間口の広い今井家 (その前は今橋家) の屋敷兼御使者宿があったことがわかります。

今井家は、町役人の最高位の一人に任命され、町役人である倉科家とともに城下町の統制にあたりました。酒庄屋、穀物商、貸家業など手広く商売をするかたわら、城への客や公用で来た者を接待し、御用飛脚などを宿泊させる「御使者宿」という藩の施設を運営していました。御使者宿は、身分の高い人が宿泊する場合にも差支えないだけの立派なものであり、城の細工師によってつくられた内部は、まるで御殿と同じ作りになっていたと言われています。当初、

天明3年（1783）には、御使者宿が調査地のある旧本町2丁目から旧本町4丁目（今井家所有の土地・現深志2丁目）に移転されました。



「享保十三年秋改松本城下絵図」（部分加工・松本城管理事務所蔵）

（4）主な成果

- ☞ 戦国時代末～江戸時代後半までの遺構・遺物を確認しました。
- ☞ 小笠原貞慶期の城下町成立（16世紀末）から石川氏・小笠原氏期（17世紀初頭）の城下町発展の変遷がわかりました。
- ☞ 城下町成立期の地層から、全国的にも珍しい杭列を伴う溝を発見しました。
- ☞ 町人屋敷の隣地境界の様子がわかりました。
- ☞ 遺存状態の良好な水道施設遺構が見つかりました。
- ☞ 御使者宿に帰属すると考えられる遺構・遺物を確認しました。



18世紀後半の様子（左側が御使者宿の範囲と推定される）



石組みのカマド



建物基礎（左側）と屋根敷境の石列（右側）



竹で造られた水道管



城下町成立期の杭列

4 松本銭の出土について

- * 未成品または失敗品の寛永通宝 ……………9 点出土
- * 銭貨の鑄造に用いられる特殊な形状をしたルツボ ……………多量出土（多くが破片）
- * ルツボを熱する際に容れる土製の容器（サヤ） ……………多量出土（多くが破片）
- * 銅等の金属を精製する時にでる不純物である滓 ……………多量出土

銭座を発掘した事例（豊後岡、長門、岡山など）から、銭座は 100m 四方以上の規模であることがわかります。松本銭座も同程度の規模が考えられるが、どこにあったのかは不明です。現在残っている古絵図では銭座解散後の様子しかわかりません。今回の発掘調査によって、上記の寛永通宝の鑄造に関連する遺物の多くが、17 世紀中頃以降の整地土に混じっていたことが確認できました。このことから、銭座が解散した寛永 17 年（1640）以降に、土地が大きく改変され、わからなくなっている可能性が考えられます。しかし、造成には多量の土が必要で、遠いところからわざわざ持ってくるとは考えにくいので、今回の調査地周辺に銭座があったのではないかと推定されます。



今井氏寄贈の
枝付き寛永通宝

未仕上げや失敗した寛永通宝



長細い砲弾形のルツボ



ト/ベ
亜鉛を精製した取鍋（本来なら右側に取手
があり、蓋がついている。）



赤い金属滓



白い金属滓